

この地を愛する人々に 受け継がれてきました

扇田に「おかない」ハタギ踊り



広報 市民リポーター だより



まさき 米澤 正貴さん

(比内地域扇田)

私が子供の頃、夏休みになると盆踊りの笛や太鼓の音が聞こえていました。扇田地区では、「扇田盆踊り」がお盆の恒例行事として、私が生まれる前から行われてきました。

扇田盆踊りは、別名ハタギ踊りと呼ばれる独特の踊りです。地域オリジナルの盆踊りが残っているところは県内でも数少なく、それだけに地域固有の誇るべき文化として伝えられてきました。

今回は「扇田盆踊り」をリポートします。しばしお付き合いください。

「ハタギ踊りとも呼ばれる扇田盆踊り」

扇田盆踊りは、かつて大館盆地を支配した豪族、浅利氏が長岡城主をしていた頃にイナゴが大発生し、城の太鼓を打ち鳴らして追い払ったことに由来すると伝えられます。翌年は大豊作になったことから、以来稲穂の出る頃に「作踊り」として踊るようになったのが「扇田盆踊り」の始まりと言われています。

動作はいたって単調で、イナゴの動作に似るとも、また虫を追う姿に似ているとも言われ、いつの頃からか「ハタギ踊り」とも呼ばれるようになりました。

昭和の初め頃までは、地主が祝い酒を振舞い、農民と共に豊

作を祈願して「扇田盆踊り」の開催を応援したと言われます。かつては、近郊の十二所、二井田、真中、東館、西館、大葛方面からも太鼓の響きに誘われて、たくさんの方が集い踊ったようです。

扇田盆踊りを守り続けてきた扇田民芸振興会

戦後しばらくは主催団体も無く中断されていましたが、ハタギ踊りが無くなってしまふことを心配した人たちが、昭和31年に「扇田民芸振興会」を結成し復活を遂げました。

洪水や火災などにより盆踊りが延期・中止になったことも度々ありました。再開したばかりの昭和31年には大館市の大火があり、その救済活動などのために、盆踊り大会の3日目が、9月12日に延期されたという記録があります。以来、半世紀にわたってハタギ踊りが守り伝えられ、民芸振興会の活動も今年50周年を迎えました。

お盆の恒例行事として

扇田のお盆行事と言えば、8月16日の晩に灯笼流しと太鼓の演奏(盆踊りの練習)、17日と18日が盆踊り大会となっています。

当初は、大町通りを会場に盛大な盆踊り大会が開かれていま